DOGMA®
dogma 【名】
確立された信条［主義，説］，定論，定説、独断的な説［主張］，独断，
独断論、教義，信条，教理 .
【語源】ラテン語・ギリシャ語，dokeîn「思われる，考える，良好と考えられる」
【発音】dɔ́(ː)gmə、【変化】《複》dogmas ｜ dogmata、
【分節】dog・ma
La storia del DOGMA
PINARELLO

No. 1

2002 / DOGMA

No. 2

2003 / DOGMA EGO

Chrome Finish Edition

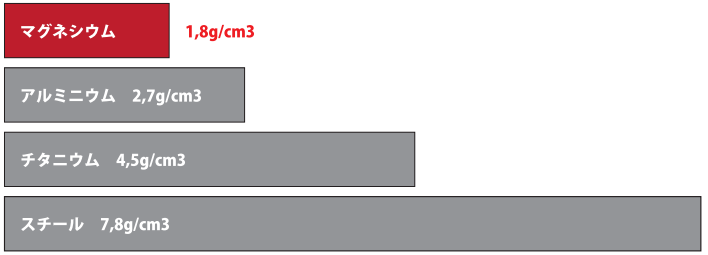
DOGMA®
MAGNESIUM AK61

唯一無二のマグネシウム・ロードバイク”DOGMA”誕生

第1世代：マグネシウム・ドグマ

2001年、ピナレロはPRINCE、PRINCE SLで培ったアルミニウム＋カーボンコンポジットというハイブリッド構造を、さらに進化させた画期的なバイク、メインフレームの金属素材にマグネシウム合金を採用した「DOGMA（ドグマ）」を発表し世界を驚かせた。

デダチャイ社と共同開発されたその夢の合金は「MAGNESIUM AK-61」と呼ばれ、金属の持つ強度や剛性と、アルミニウムにはない振動吸収性、そして軽量さと、ロードバイクのフレーム素材としては理想的な特性を持つ金属素材であった。



そして、そのマグネシウム合金のメインフレームに組み合わされるフロントフォークとシートステイは、PRINCE SLから採用され、ピナレロの代名詞ともなった名作「ONDA」カーボンだ。

マグネシウムという金属素材には腐食しやすいという問題があるが、デダチャイ社はその問題をクリアし、非常に難しい加工・溶接の問題もピナレロ社の技術陣が解決した。

ピナレロはすぐにスポンサーチームであるファッサ・ボルトロに新しいバイクを供給、ついに「DOGMA」がプロレースでデビューする事となった。

※カタログ上のモデルイヤーと実際の発売年度は異なります。

ファッサ・ボルトロのアレッサンドロ・ペタッキは、「DOGMA」が供給されると同時にスプリンターとしての才能を開花。当時最強のスプリンターだったマリオ・チッポリーニも破り、ペタッキはジロやツール、ブエルタとった大舞台のステージレースでステージ優勝を連発、ジロ区間６勝、ツール区間４勝、ブエルタ区間５勝という大記録も達成した。

DOGMA® FP

アレ・ジェット! ペタッキの活躍を支えた ” DOGMA ”

No. 3

2004 / DOGMA FP

Team Fassa-Bortolo Color

アレッサンドロ・ペタッキが勝利を量産するようになると、ピュアスプリンターの強大なパワーを受け止めるボトムブラケットの強化が必須となった。ピナレロは、コンポーネントの強度不足を補うため現在の大口径 BB の先駆けとなる「MOST オーバーサイズボトムブラケット」を独自開発。AK61 マグネシウム・チューブもダブルバテッドにバージョンアップした「DOGMA FP」としてデビューさせた。

現在に続くピナレロのアイコンともいえる「ONDA」カーボンフォークは、ファッサ・ボルトロの活躍によりその有効性が証明された。

DOGMA® FPX

No. 4

2007 / DOGMA FPX

マグネシウム”DOGMA”の最終進化形

フロントフォークはリブ加工された「ONDA FPX」へ進化し、MAGUNESIUM AK61 もトリプルバテッドになり全体的に高剛性な方向へブラッシュアップされました。「DOGMA FPX」は、2006 年にイリュス・バレアレスのオスカル・ペレイロがツール・ド・フランスの個人総合優勝を成し遂げています。

フロントフォークは、クラウン部分の剛性を高めるリブが際立つデザインの「ONDA FPX」カーボンフォークに進化。ステアリングコラムも高剛性化に伴い 1"1/8 - 1"1/4 のテーパードチューブに拡大された。

ロードバイクの世界でピュア・マグネシウムを採用することは、夢物語、そして達成不可能な夢ながらフレームビルダーが最も欲する素材でした。その理由はこの素材の特性がコンペティションフレームの求める性能に完璧に合致するからです。マグネシウムはアルミニウムよりも 35%軽量で、同じボリュームでカーボンと同等の強度を持ち、さらに弾性ではカーボンより優れた性能を持つ究極の素材です。

ドグマを駆るその感触は、ペダリングをするごとに電撃が走るような鮮烈なものです。その走りはピナレロのプライドを体現し、フレームには”Fatta da Pinarello（ピナレロ製）”のエンブレムが輝いています。我々がこの到達点に到るまでには、技術者、デザイナー、職人達の並々ならぬ努力と犠牲が払われました。ピナレロのプライドを持つ彼らによって、ドグマはチューブの溶接からペイント、アッセンブルに到るまでトレビソの工房で丁寧にハンドメイドされていました。

PINARELLO

DOGMA 60.1

No. 5

2010 / DOGMA 60.1

the Dogma is back...

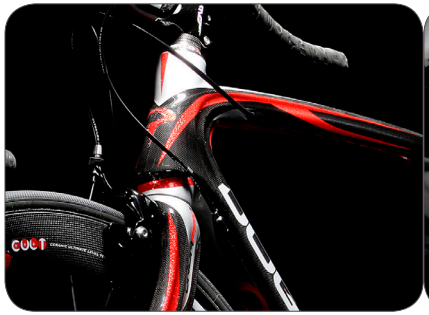
第2世代：フルカーボン・ドグマ（ONDA FPX 系）

ピナレロは 2007 で PARIS CARBON を発表しフルカーボンフレームの可能性を探りました。そして 2008 には東レの持つ世界最高のカーボン素材 50HM1K カーボンを採用した PRINCE CARBON を発表し、イリュス・バレアレスのアレハンドロ・バルベルデらが活躍しました。

そして 3 年の時を経て満を持して発表されたのが TORAYCA 60HM1K カーボンという航空宇宙産業で使用する超高剛性カーボンマテリアルを採用し、世界で初めてフレーム全体を左右非対称設計とした「DOGMA 60.1」です。

オリジナル「DOGMA」から数えて 5 代目に当たる「DOGMA 60.1」は、アシンメトリック（左右非対称）とい設計概念をロードバイク設計に持ち込み、後のロードバイク開発に大きな影響を与えた革新的なモデルとなりました。

ピナレロと長きにわたり関係を続ける「モビスター（旧イリュスバレアレス）」に加えて、2010 年からイギリスの新チーム「チームスカイ」にもバイク供給を開始、チーム設立初年度から勝利を量産、今に続くピナレロとチームスカイの強力なコラボレーション体制が誕生した。



No. 6

2012 / DOGMA 2

DOGMA 2

INTELLIGENCE(R)EVOLUTION

モビスターとチームスカイ
2つのチームに供給されたスーパーバイク

モビスターとチームスカイの２つのプロツアーチームに供給された「DOGMA 2」は、前作の「DOGMA 60.1」の左右非対称設計をさらに進化させ、エアロダイナミクス性能も向上させています。

さらにシマノから発売された電子制御シフトに完全対応するようバッテリーアタッチメントを備え電動ケーブルも内装可能な電動専用モデルもリリースされました。

「DOGMA 2」もブラッドリー・ウィギンスのドーフィネ総合優勝や、チームスカイのエドヴァルド・ボアッソン・ハーゲン、モビスターのルイ・コスタらがツール・ド・フランスでステージ優勝するなど数多くの勝利を収めました。

PINARELLO

No. 7
2013 / DOGMA 65.1
Think 2

DOGMA 65.1 THINK2

Welcome back to Paris!

「DOGMA 65.1 Think2」はチームスカイのブラッドリー・ウィギンスをツール・ド・フランス 2012 個人総合優勝に導き、マーク・カヴェンディッシュやモビスターのアレハンドロ・ヴァルベルデのステージ優勝にも貢献しました。

チームスカイのスプリンターであり世界チャンピオンのマーク・カヴェンディッシュは DOGMA 2 に初めて乗った時に「このフレームは完璧だ。どこも変更する必要がない」と評しました。すでに高い評価を得ているフレームをさらに良くする事は容易ではありませんでした。DOGMA 65.1 THINK 2 は高い評価を得ているアシンメトリック・デザインなど DOGMA 2 の優位性はそのままに、さらに高弾性な東レの超ハイモジュラス 65t グレードカーボン「65HM1K Nanoalloy」を採用し軽量化され、「THINK 2」システムにより、メカニカル・電動の両システムに対応が可能になりました。

No. 8

2015 / DOGMA F8

DOGMA F8

“A new benchmark is born.”

第3世代：フルカーボン・ドグマ（フラットバック系）

2014 年 6 月、ピナレロは電撃的に新しい DOGMA を発表した。過去 2 年間でツール・ド・フランスに 2 回、ワールドチャンピオンと 100 以上のプロツアーレースで勝利を掴んだ「DOGMA 65.1」を見直し、チームスカイとジャガー、東レとの強力なコラボレーションを得て開発した「DOGMA F8」だ。

すでに完成の域に達した DOGMA を進化させるのは非常に困難な作業でした。「DOGMA 65.1」が持つハンドリングやライドフィールなどは変化させずに、エアロダイナミクス性能の向上、軽量化など達成するため最新の解析技術を用い風洞実験を繰り返し完成させた。

12% の剛性アップ
16% のバランス均等化
-47% 空気抵抗軽減
-120gr フレームフォークでの軽量化

PINARELLO

No. 9

2016 / DOGMA F8 Xligh

DOGMA F8 XLIGHT

フルームのツール連覇を支えた超軽量 ” DOGMA ”

クリス・フルームの 2 年連続 3 回目のツール制覇とピナレロのツール 12 勝目を支えたスペシャルなバイク「DOGMA F8 XLIGHT」「DOGMA F8 Xlight」は、「DOGMA F8」のエボリューションモデルとして、「DOGMA F8」が持つフレーム剛性とエアロダイナミクスはそのままに軽量化を達成しています。

新しいトレカ ® T1100G UD カーボンを、樹脂の使用量を減らす事が出来るプリプレグ（カーボンシート）で使用し、専用の成形用金型と今までよりさらに工程数が増えた複雑な積層作業で構造を最適化することにより、フレームで約 80g 軽量化されています。「DOGMA F8 Xlight」はフレーム 780g、フロントフォークが 340g と歴代 DOGMA の中でも最軽量に仕上がっており、DOGMA F10 が発表された現在でも、F8Xlight がシリーズ最軽量となっています。

No. 10

2017 / DOGMA F10

DOGMA F10

Natural born Winner

2017 年 1 月に突如発表された、ツール・ド・フランスの連覇を命題に開発が進められてきたスーパーバイク。TT バイク「BOLIDE TT / HR」と「DOGMA F8」を融合、さらにエアロダイナミスク性能を向上させ軽量・高剛性になったオールラウンド・エアロロード。

トップチューブやダウンチューブの造形も一新され、フロントフォークには乱流を抑えるフィン「Fork Flap」を装備、アシンメトリック・デザインもさらに煮詰められてパワー伝達効率を改善。「DOGMA F8」のライディングフィールはそのままに、各特性に磨きをかけた最新の「DOGMA」です。

PINARELLO

PINARELLO
Think Asymmetric

PINARELLO JAPAN(ピナレロジャパン)
590-0007 大阪府堺市堺区北庄町 3-3-16
Tel. 072 238 0039
info@pinarello.jp - www.pinarello.jp

◆本カタログに記載の内容は2017年6月現在のものです。

Printed in Japan 2017/6